

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

このたびの台風15号および19号により被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
清水港湾事務所では、引き続き、災害対応に全力で取り組んで参ります。

高機能コンテナを利用した農産物海上輸送試験を行っています

政府は国産の農林水産物や食品の海外への輸出拡大に向けた取組を推進しているところですが、中部地方整備局においても、農産物の海上輸送による輸出促進を図るため、今年度清水港をモデル港として、高機能冷凍・冷蔵コンテナを活用した農産物の第一回目の輸送実験を今年8月に実施しました。

当然のことながら、鮮度を保持したまま産地から輸出・輸送先へ届ける必要がある野菜や果物については、短時間で配送可能な航空貨物としての輸出が主流となっていますが、近年、長期間の鮮度保持を可能とする高機能冷凍・冷蔵コンテナが開発・実用化されたことにより、船便で農産物を鮮度保持したまま海上輸送することが可能となってきているところです。海上貨物としての船便での輸出は、航空貨物としての輸出と比べ輸送期間はかかりますが、大量輸送が可能であり、かつコストを大幅に抑えることができるため、現地での価格競争力が向上し、より多くの国や地域の方々に、日本の安全で美味しい農産物を食して頂くことが可能になると想定されます。

また静岡県においては「農水産物輸出促進計画（清水港）」が策定されており、本計画が2018年2月に国土交通省から「農水産物輸出促進基盤整備事業」に認定されたことや、中部横断自動車道の長野県や山梨県と清水港を結ぶ区間が2020年に開通を控えており、清水港を活用した農産物の輸出促進機運が高まっているという状況です。

これらを踏まえ、今回中部地方整備局港湾空港部が発注する業務において、今年度4回海外（シンガポール）への農産物輸送試験を実施することとなっており、清水港からシンガポール港への第一回輸送試験として、静岡県内外の農産物全28品目を集荷し、冷蔵倉庫で保管されたものを高機能コンテナ（futecc：フーテック）にバンニング（コンテナに荷物を積み込む作業）する作業について、8月2日（金）に多くの関係者や報道機関等に公開する形で実施されました。

コンテナバンニング後、当日中に清水港新興津コンテナヤードに到着し、8月6日に清水港出港、8月17日にシンガポール港に入港いたしました。現地での農産物検品の結果、28品目中24品目は可販率が非常に高い結果となりました。今後は残り3回の輸送実験で、各季節ごとに収穫されるより多くの農産物について、包装方法等にも配慮・工夫しつつ試験輸送し、その品質について確認していくこととしています。



＜冷蔵倉庫内での
関係者への説明状況＞



＜コンテナ内への農産物
バンニング状況＞



＜輸送後も良好な品質の桃
（シンガポール内で撮影）＞

御前崎港 『ぱしふいっくびいなす』初寄港！

8月20日（火）午前7時30分頃、豪華大型客船『ぱしふいっくびいなす』が御前崎港沖に姿を現し、全長183.4m、2万6594tの客船はゆっくりと港内を航行しながら、午前8時頃には無事、西埠頭1,2号岸壁へ着岸しました。

御前崎港では、チャーター便として寄港した客船の入港実績はありますが、一般客が乗船した客船の入港は、開港以来初となりました。着岸時には強く降っていた雨も『ぱしふいっくびいなす』の入港を祝う御前太鼓の演奏、創作ダンスの披露後には次第に止み、乗客が下船する頃には晴れ間ものぞき、関係者の皆様方の苦勞が実ったことを感じました。

船内で開催された歓迎式典を前に、関係者が船内を見学し、客船の豪華さ、優雅さを体感しました。式典では、御前崎港客船誘致協議会の会長である柳澤重夫御前崎市長より、「客船を何としても誘致したいという思いから、協議会を立ち上げ、今日に至った。乗客と市民との交流、情報交換ができれば有り難い。心に残る1日としたい。」と歓迎挨拶がありました。『ぱしふいっくびいなす』の松井克哉船長からは、「熱心な誘致活動により初寄港となったこと心より喜ばしいこと。御前崎港の後背地には、多くの交通機関があり、寄港するだけでなく、発着港としても可能性がある。今後も多くのお客様をこの地に連れ、市民とお客様の架け橋になりたい。」と返礼の挨拶がされました。

岸壁では、お茶の振る舞いなどのおもてなしイベントが開催され、乗客や訪れた約9千人の市内外の来場者で賑わいました。

夕方の方の出港時には、“一生に一度の機会、生涯に一度限り”という意味を示す『一期一会』を白布に力強く書かれた書道家の演舞に魅了された後、客船が出港。客船の再来訪を願い、記念手ぬぐいを振って『ぱしふいっくびいなす』をお見送りしました。

また、『ぱしふいっくびいなす』の初寄港にあわせて、8月17日（土）、18日（日）に『御前崎ポートフェスタ2019』が開催され、御前崎港事務所はブース出展をしました。

防波堤模型、御前崎港の今昔などのパネル展示を行い、来場された約200名の方に、防波堤模型に触れていただき、防波堤により港内や背後の市街地が守られていることを知ってもらいました。あわせて防波堤改良工事の施工業者による建設機械の展示なども行われ、建設機械の前でポーズをとる親子連れの様子が見られました。さらに、静岡県御前崎港管理事務所による消波ブロックへのお絵かきコーナーも評判で、多くの子ども達が消波ブロックをキャンバスにして、絵と書を楽しそうに描いていました。

8月18日（日）には、当所所有の港湾業務艇『ふじ』による港内見学を行い、4航海約50名の方々に防波堤の外側を周遊し、港湾施設の大きさを堪能していただきました。乗客に防波堤にある消波ブロックの重さは約80t、高さ約5mであると伝えるとその大きさに驚かれていました。

8月20日（火）の『ぱしふいっくびいなす』寄港当日には、“『ぱしふいっくびいなす』を海から見てみよう！”と題し、6航海約70名の方々に『ぱしふいっくびいなす』の勇姿を船首、右舷、船尾の順で航行し、じっくりと見学していただきました。当船側から手を振る姿に気づき、客船に滞在されている乗客が手を振り返す姿も見られ、ほのぼのとしたひとときとなりました。



<御前崎港に入港する『ぱしふいっくびいなす』>



<ブース出展（防波堤模型）>



<『ぱしふいっくびいなす』を海から見てみよう！>

でっかいぞ！ 令和の白船あらわる！！ [マジェスティック・プリンセス] 清水に初寄港

8月22日（木）、清水港日の出ふ頭にクルーズ客船「マジェスティック・プリンセス」が初寄港しました。この船は、清水港に寄港した客船の中では過去最大の大きさ（全長330m、約14万トン）です。なんと、約4千人！もの乗客を乗せ、上海から横浜、清水、大阪、高知を巡り上海に戻るといふ8日間のクルーズの途中で、我が清水港へと寄港しました。

当日は、夏場には珍しく富士山を拝むこともできる観光日和になり、乗客は、周辺の市街地散策やバスに乗って名跡等の観光など、清水での一日を楽しまれていたようです。

また、出港前には、日の出ふ頭へ多くの市民が駆け付け、出港の汽笛とともに、巨大なクルーズ船が日の出ふ頭からゆっくりと離れていく様子を、市民も乗客も皆で手を振りながらお見送りをしていたのが印象的でした。

今後も清水港には多くのクルーズ客船が来る予定になっております。皆さん是非お見送りに日の出岸壁へいらしてみたいでしょうか。また、クルーズ旅行に出かけて、船上から手を振ってみるのも旅情があって本当に楽しいですよ。引き続き当事務所でも、国際旅客船拠点形成港湾清水港の国際クルーズ振興に向けて、できる限りの応援をしてみたいです。



＜マジェスティック・プリンセス＞



＜清水区広報キャラクター「シズラ」も歓迎＞



＜お見送りに集まった多くの方々＞



出前講座・見学会の取組み



出前講座



国土交通省では、私達の行っている事業や施策についてもっと知っていただくとともに、みなさんのご意見や生の声を聞かせていただく場として「出前講座」を行っています。

清水港湾事務所では、7月と10月に県内2つの小学校の児童を対象に出前講座を行いました。どの児童も、暮らしを支える港の役割や静岡県の産業を支える活力ある“清水港の役割や機能”に関する説明に真剣に耳を傾け、積極的にメモを取る姿が印象的でした。

7月 3日（水）静岡市立清水小学校 5年生
10月31日（木）静岡市立清水三保第二小学校 5年生



出前講座の様子



清水港見学会



県内外の小学生が清水港を見学に訪れました。

港内見学や港湾施設見学を通し、清水港の物流や港湾施設の機能について、より一層理解を深めていただきました。

9月12日（木）八王子市立上川口小学校 5年生
10月25日（金）富士宮市立山宮小学校 4年生
10月29日（火）裾野市立須山小学校 5年生



船内から清水港を見学



港に賑わいを！大井川港の取組紹介

大井川港では、港を中心とした賑わいの創出を目的として、市民が参加できるイベントの開催や客船の誘致活動などに積極的に取り組んでいるところです。

7月14日（日）、焼津市大井川地区の大井川港特設会場にて「第19回 ^{おどろっかい}踊夏祭」が開催されました。「踊りがまちを揺らす踊りがまちを変える！」を合言葉に、“市民総参加のイベント”として、子どもからお年寄りまで幅広い方が踊りに参加できる他、今年で14回目を迎えるトライアスロン大会や手筒花火、人気アイドルグループ「SKE48」のメンバーによるミニライブなどが催され、大いに盛り上がりました。また、大井川港は平成26年に「みなとオアシスおおいがわ」として認定登録されており、当事務所と中部みなとオアシス連絡協議会が合同で出展した、各港やそれぞれのみなとオアシスをPRするブースにもたくさんの方にお越し頂きました。

一方、客船誘致に向けた取組として、7月30日（火）に、今年度1回目となる大井川港客船等誘致委員会が開催されました。大井川港客船等誘致委員会では、令和2年度にクルーズ船の初寄港を目指し誘致活動を実施しており、先進地の現地視察や船社関係者を対象としたファミトリップ（モニターツアー）等を実施していくとした事業計画が承認されました。

また、客船誘致に向けた活動の一環として、10月8日（火）に大井川港客船等誘致委員会が清水港を訪れ、国・県・静岡市との意見交換や客船が寄港した際のおもてなし体制を視察しました。

当事務所より、世界の客船の動向や日本各港の客船の受入体制の構築に向けた取組状況等についての説明を行った後、客船誘致の取組について清水港客船誘致委員会との意見交換を行いました。また、日の出岸壁には、清水港では初となる探検船「ル・ラペルーズ」が寄港しており、富士山グッズなどのお土産を販売しているマルシェや、お茶会・着物の着付け体験、出港時の花火の打ち上げなどの歓迎事業を視察しました。

今回の視察を受けて、大井川港への賑わいの創出に向けた更なる客船誘致への取組が進められる事が期待されます。



＜踊夏祭の様子＞



＜意見交換会の様子＞

技術をつなげ！！ ベテランから若手への水中溶接実技講習会開催（日本潜水協会）

10月10日（木）～11日（金）、一般社団法人 日本潜水協会による潜水土の技能講習（水中溶接・溶断）が、清水港で開催されました。

潜水業界の健全な発展のためには、豊富な経験を有するベテラン潜水土から若手潜水土に技術を伝承していくことが不可欠です。しかし、昨今の港湾関係工事の潜水土を要する現場においては、効率性と品質確保が最優先され、若手潜水土の育成に時間を割くことが難しい状況です。そこで協会の取組として、全国の若手潜水土の技能向上を図ることを目的に、捨石均し作業・据付作業等の数ある潜水作業それぞれの技能を身に付けてもらう講習を、随時行っています。今回は14名が参加し、水中溶接・溶断の潜水作業を課題にした講習（座学、実技）が行われました。港湾工事において潜水土は必要不可欠な業種であり、当事務所でも、工事現場等のフィールド提供など潜水土の育成に少しでも寄与することができるよう、できる限りの協力をする必要があると感じました。



＜講習会の様子＞

イベントに出展しました！

御前崎みなと夏祭

8月3日（土）マリナーパーク御前崎で開催された「御前崎みなと夏祭」に、現在、御前崎港で整備を進めている防波堤の粘り強い化の模型と静岡県内のみなとオアシスのパネル等を展示するブースを出展しました。

イベントを通し、防波堤の効果や港の役割・取組みについて知っていただく良い機会となりました。

防波堤の粘り強い化とは…

防波堤のかさ上げや地盤にコンクリートブロック等を並べることで、大規模地震に伴う津波により、地盤が流され防波堤が倒壊するのを防ぐこと。



＜港を紹介＞

♪ 今後のイベント出展情報 ♪

しずおか建設まつり

普段身近に接する機会の少ない建設業に、子ども達が触れ合う機会を創出する事を目的として、関係団体・企業による、職業体験や重機への乗車体験、パネル展示などが行われます。

清水港湾事務所では、「海辺の環境創造プロジェクト」への協力団体のご協力のもと、港湾整備に関する体験・展示ブースを出展します。

料金無料

開催日時：令和元年11月9日（土）10：00～16：00

※雨天の場合、翌日11月10（日）に順延

会場：清水マリナーパーク（エスパルスドリームプラザ海側デッキ）

内容：ミニチュア消波ブロック製作体験、消波ブロックの世界展（映像や写真を用いた消波ブロックの説明、型枠の組立体験やブロックのデザイン体験）



＜去年の様子＞

ちきゅう一般公開

海洋研究開発機構（JAMSTEC）が所有する「ちきゅう」が11月30日（土）、12月1日（日）の2日間、日の出の頭にて一般公開されます。

当日は公開にあわせ、日の出マリナーターミナル2階の多目的ホールで、一般公開記念イベントが開催され、清水港湾事務所では港湾整備に関する紹介ブースや、港湾業務艇「まさき」を使った港内見学を行います。

＜まさきから港内を見学する様子＞



開催日時：令和元年11月30日（土）、12月1日（日）10：00～16：00

会場：日の出マリナーターミナル2階多目的ホール

内容：ミニチュア消波ブロック製作体験、消波ブロックの世界展、実物大の係船柱の模型展示、ドローンのフライトシミュレーター、港内見学（※）

※港内見学は当日受付。定員になり次第、終了とさせていただきます。（先着順）

※乗船希望者を事前に募集します。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

詳しくは清水港湾事務所ホームページをご覧ください。

料金無料

南海トラフ巨大地震を想定した合同防災訓練

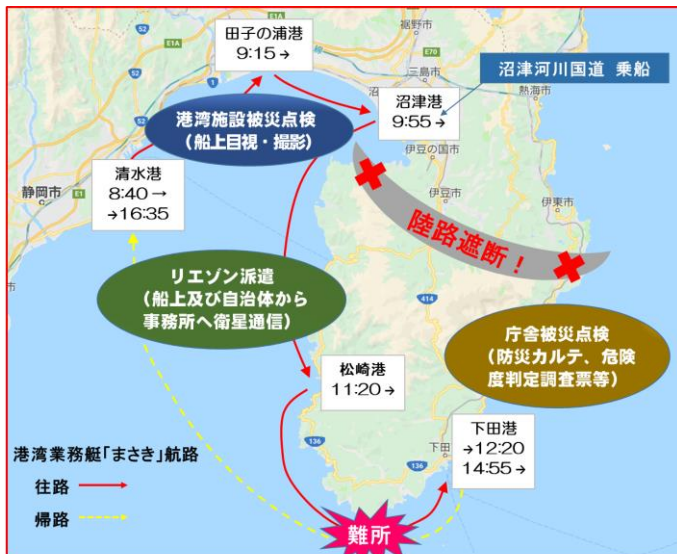
《伊豆半島への海上移動訓練》

清水港湾事務所と静岡営繕事務所は、南海トラフ巨大地震の発生に際し、伊豆半島が陸の孤島となる事態を想定して、港湾業務艇「まさき（19ト）」による海上移動での被災地支援訓練を毎年度実施しています。

今年度は7月11日（木）に、沼津河川国道事務所と静岡県清水港管理局も初参加し、4機関合同で衛星電話を使用した海上から陸上への衛星通信訓練などを実施しました。

今回の訓練では、海が荒れ船舶での移動が難しくなった場合に、近くの港に避難し陸上移動へ切り替えるなど、被災地へ確実に到着できるルート選択が課題として浮かび上がりました。

今後も防災訓練を通じて関係機関との連携を強化し、被災地支援の能力を充実させていきます。



＜想定内容＞

海上から伊豆半島へ被災地支援をするルートを想定して訓練をしました。



＜訓練の様子＞

浜名湖ミナトリング2019が開催されました

浜名湖と周辺の食を楽しむ「浜名湖ミナトリング2019」が7月13日（土）、14日（日）湖西市新居町の浜名港で開催されました。「浜名湖ミナトリング」は、静岡県西部唯一の港湾である浜名港と浜名湖を活用し、地域住民の交流や観光の振興を通して地域の活性化を図るイベントです。

13日（土）オープニングセレモニーでは、主催者・来賓挨拶等に続き、地元高校生により、郷土の偉人 豊田佐吉翁の名言や静岡県の象徴である富士山、静岡県及び湖西市の花、木、鳥が描かれた消波ブロックについて紹介がされました。その中で、消波ブロックは波浪による災害から人々や海の生物を守り、美しい浜名湖の風景、景観が保たれているとの説明があり、港湾整備に携わる私達にとって、頼もしい応援団的存在であると感じました。最後に、浜名湖宣言として「豊かな自然を愛し、美しい景観を守る。」「資源を生かし、賑わいの場を創造する。」「魅力を世界に向けて発信する。」の三つの宣言を出席者全員で唱和し、セレモニーは無事終了しました。

会場の浜名港内ではプレジャーボートの乗船体験、高さ3.5m（重量32t）の消波ブロックへのお絵描きコーナー等があり、多くの来場者で賑わっていました。



＜地元高校生が絵と書を描いた消波ブロック＞



＜プレジャーボート乗船体験の様子＞

【取材レポート】清水港に新しい梱包物流施設ができました

人々の生活や活動は大きく分けて生産と消費がありますが、これらを支える活動に物流があります。物を送り届けるには、船やトラック等を使って荷物を移動させる輸配送だけでなく、保管、包装、荷役、流通加工といった機能が必要となります。

今回は、平成31年2月8日に完成したばかりの柏栄トランス（株）の「清水港梱包物流センター」取材したので紹介します。



＜清水港梱包物流センター＞

清水港梱包物流センターは、大型梱包工場と倉庫が一体となった総合梱包物流センターです。もともと柏栄トランス（株）は日の出に梱包施設や倉庫を持っていましたが、老朽化してきていることが課題になっていました。また、清水港全体を見ても大型機械を梱包できるような施設が無く、他の港に運ばなくては行けません。これらの課題を解消するべく、柏栄トランスは興津地区に新しい倉庫兼梱包施設の建設に踏み切りました。清水港の利便性をより良くしたいとの思いから、センターの名前には社名ではなく、「清水港」とつけているそうです。

この物流センターの特徴は天井に40 t クレーンを備えていることです。これは今までの清水港にはない大型の天井クレーンです。これにより海上コンテナに積載できる上限の30 t 級の大型・重量物を梱包できるようになりました。

また、このセンターは梱包施設と物流倉庫を一体化しているため貨物の受け入れから、梱包、倉庫での保管、通関、コンテナ積み込みまでの物流過程をセンター内で一貫して行えます。このため、船に積み込むまでの時間の短縮とコストを削減することが可能です。さらに、大型天井クレーンを含めたこれらの設備により屋内での重量物の積み降ろしが可能となり、雨、風の心配なくコンテナ荷役、固定・固縛作業が行えます。

見学時は、実際にトレーラーに積まれた貨物や20 t の大型フォークリフト、8 t のエレベーターが見られました。どれも普段見られないような大きなもので圧倒されました。

貨物は様々な形状の物があり、荷主の要望もそれぞれ異なるため、各貨物に合わせた形状のパレット（荷物をのせる荷役台）を倉庫の中で作っていました。安全・確実に荷物を運ぶために一つずつパレットを作り、様々な梱包を行っているんですね。

また、倉庫の中は人や物が動きやすいように整理整頓がしっかりされていました。掃除や片付けが出来ると倉庫作業の効率が上がるだけでなく、けがや事故の防止にもつながります。

柏栄トランス（株）の皆さま、お忙しいところ取材にご協力いただきありがとうございました。



＜天井クレーンとトレーラーに積まれた貨物＞



＜20 t 大型フォークリフト＞



＜倉庫の様子＞

シリーズ「富士川水運」⑥（全8回）

東海道日本橋より15番目宿場「蒲原宿」は、江戸時代当初より富士川による水害、地震などの天災により、度々被害を受けました。蒲原町史によると、角倉了以の富士川開削工事後の慶長17年（1612年）蒲原地域は大洪水に見舞われています。天正10年（1582年）頃まで「支流」だった水神社の西の流れが、この工事以降、「本流」になり、現在に至る富士川の流れになりました。その影響で、対岸の東側の水害は減りましたが、逆に西側（蒲原側）は田畑20町歩が流される大被害が発生、さらに対岸の雁堤完成後は、加島での五千石造田した事とは対照的に、洪水被害が増し、堤防の構築、破壊が繰り返されたようです。

江戸時代初頭の慶長年間の東海道は、宿場自体が現在の新蒲原駅西南の位置にあり、岩淵より富士川沿いに下り、現在の日本軽金属株式会社 蒲原製造所内を抜け、海岸線に並行するように宿場に入る、鎌倉街道に沿っていたのではないかと考えられています。ただ、当時の蒲原宿の記録と街道の記録は、元禄12年（1699年）8月の大津波による宿場の壊滅によって、ほとんど残っていません。蒲原町史では「大津波」となっていますが、大型台風による暴風と大規模な高波によって、海岸に近かった蒲原宿が飲み込まれたようです。100軒以上の建物が倒壊し、住人、旅人合わせて60人以上の死者を出すなどの大惨事となり、結果として宿場自体を御殿山麓側に移動し、東海道も同様に山沿いに移る事になりました。



＜離岸堤と国1BPの先に広がる蒲原海岸＞

廻米の富士川舟運において蒲原宿は、岩淵から陸送された廻米を蒲原海岸から清水湊へ輸送される部分の権利を有していました。廻米は小廻と呼ばれる小型船（200石から300石積）で清水湊に運び、廻米置場で留置かれた後、千石船で江戸に運ばれました。

甲府市史によると、廻米が始まった当初の蒲原浜から清水湊へ小廻船による運賃は「米1俵に付き4合1勺を米で支払い」となっています。岩淵から蒲原浜までの陸送分と、この費用が甲州廻米に関しての蒲原地区の収入となりました。清水湊から富士川水運をつかった「塩」の運搬もこの道を辿っているため、蒲原浜は駿府・甲州間の物流の重要な地位を築いていきます。

蒲原には、武田時代に富士川から水路で水を引き水量調節をしていた「升形」という場所がありました。元禄3年（1690年）の検地では、この付近に五反十五町歩もの水田が広がっていた記録があります。現在の清水区蒲原新栄付近がこの場所に当たり、蒲原宿に近く、大津波があった元禄12年の以前は鎌倉街道がこの升形辺りを通り岩淵の富士川の渡しに繋がっていました。後年、この水路は蒲原宿付近まで延長されたようで、岩淵宿より元文5年（1740年）に出された「蒲原浜乗下げ禁止歎願書」に見るように、一部の舟が水路を使い、甲州三河岸より蒲原宿まで直接乗入れが行われていたようです。天保9年（1838年）には「御廻米舟路堀川筋仕上書上帳」が蒲原宿より江戸代官所に出されています。それまで使われていた堀川筋の水路九百五十間（約1.7km）を整備して使用し、五十間（約90m）の船繋場を造成、完成後は、かなりの数の廻米船が岩淵での積み替え無しに、蒲原浜の高浜船溜まりに来ることが出来るようになりました。しかし、この水路は、嘉永7年（1854年）の安政の大地震によって蒲原側富士川河口付近が隆起したため、使用出来なくなりました。

※このシリーズは「富士川水運」について紹介するもので、今回は連載6回目です。

山口 博史(やまぐちひろふみ)昭和43年 静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ技術スタッフ。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーい に よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

木全・富田 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp